

平安神宮

平安神宮

平安神宮は平安遷都1100年を記念して、1895（明治28）年に遷都の祖神様である第50代桓武天皇を御祭神として創建されました。平安神宮の創建は、幕末の戦乱や明治維新によって著しい衰退を見せた京都の町おこし事業の集大成であり、そこには、京都復興への人々の熱意と、四海平安の祈りが込められています。

その後、皇紀2600年にあたる1940（昭和15）年には、平安京有終の天皇、第121代孝明天皇の御神霊が合わせ祀られ、「日本文化のふるさと京都」の祖神様として広く崇敬を集めることとなりました。

平安神宮の御社殿は、遷都当時の平安京の正庁、朝堂院が8分の5の規模で再現されています。大極殿・蒼龍楼・白虎楼・龍尾壇・東



大極殿



大鳥居

西歩廊・應天門等は創建当時に造営されたものであり、国の重要文化財に指定されています。また、岡崎公園のランドマークとなっている朱の大鳥居は、1928（昭和3）年に昭和天皇御大札の記念事業として建設計画が開始され、その翌年に造営されたものです。

平安神宮神苑

明治時代の代表的な日本庭園として広く内外に知られている平安神宮神苑は、御社殿を取り囲むように東・中・西・南の四つの庭からなっています。総面積33,000㎡（約三万坪）の広大な池泉回遊式庭園で、明治の有名な造園家七代目小川治兵衛らの手により造成されたものです。平安京千年の造園技法の粋を結集した庭園として、国の名勝に指定されています。

四季折々に風光明媚な趣を見せ、神々しい風景を織りなす神苑では、大いなる自然の営みに触れることができ、訪れる人の心を平安へといたなしてくれます。



時代祭

京都の三大祭の一つである時代祭は、毎年10月22日（雨天順延）に行われる平安神宮の祭で、平安京の造営された延暦時代から明治維新までの時代装束をまとった、約二千名による時代行列が見どころです。京都が首都として千有余年にわたって培ってきた伝統工芸技術の粋を、動く歴史風俗絵巻として披露することを主眼としているため、使用している衣装や祭具が厳密な時代考証をもとに作製された「本物」であるところに、その特徴があります。

平安神宮神苑 拝観情報

- 神苑拝観料金
大人 600円
小人 300円
※神苑無料公開は、年2回（6月上旬、9月19日）行われています。
- 神苑拝観時間は季節により変わりますので、御注意ください。



春の生きもの 平安女神宮

生きものの位置を図示していますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

用語解説
留鳥 餌を求めて移動するものの、ほぼ一年を通して見られる野鳥
渡鳥 秋から冬にかけて国内を越冬のために移動してくる野鳥
留鳥 春に日本より南の地域から繁殖のために渡ってくる野鳥

13 キセキレイ 留鳥

見つけやすさ ★



尾羽を上下に振りながら水辺を歩いて水生昆虫や昆虫などを捕らえる野鳥です。飛び立つときに、「チチン、チチン」と鳴き、上下に波を描くように飛びます。背は灰色で、胸から腹にかけて黄色いのが名の由来です。

13 キセキレイ

西神苑

中神苑

06 シロバナヤマフジ

04 カキツバタ (鶯の尾)

14 ルリタテハ

09 クサガメ

05 カキツバタ (折り鶴)

03 ウグイス

オガタマ

08 カンヒザクラ (寒緋桜)

東神苑

11 テングチョウ

10 オオシマザクラ

11 テングチョウ

見つけやすさ ★



タテハチョウの仲間で、頭部の触覚の内側に前に伸びる突起があり、それが天狗の鼻のように見えるのが名の由来です。幼虫の食樹はエノキです。翅を広げると茶色地に赤い斑紋が見えますが、翅を閉じると枯葉のようです。成虫で越冬する蝶です。

09 クサガメ

見つけやすさ ★



在来種のカメの仲間です。甲羅の前から後ろにかけて3本の稜線があり、頭部は黒色が褐色で、黄緑色の不規則な斑紋があります。四肢の付け根の臭腺から臭いを出すので「臭亀」という名になりました。雑食性で、エビ、昆虫、魚類、貝、水草などを食べます。

07 サメビタキ 夏鳥

見つけやすさ ★★★



体の色が灰褐色で鰯の色に似ているので「鰯ビタキ」という名になりました。春に繁殖のために東南アジアなどから渡ってきます。近くを飛び昆虫を見つけると、飛びながら捕らえ、同じ枝に戻ってきます。秋に南方に帰る時にも立ち寄ります。

05 カキツバタ (折り鶴)

見つけやすさ ★



白地に紫の模様がある千代紙で折ったようなカキツバタの園芸品種です。光格天皇(119代)が御遺愛されたと伝えられています。中神苑の茶店の前にあり、優雅な色と姿で人々をなごませてくれます。

03 ウグイス 漂鳥

見つけやすさ ★★★



低い樹々が込み入った場所で昆虫類やクモを探す野鳥です。オスが「ホーホケキョ」とさえずるのは春ですが、神苑では特に冬場によく見ることが出来ます。普段はメスもオスも「チャッ、チャッ」と鳴き、体色は灰褐色が目立たない色をしています。

14 ルリタテハ

見つけやすさ ★★★



タテハチョウの仲間で、翅の表面には濃い青色(藍色)に水青色(瑠璃色)の帯模様があり、これが名の由来です。翅の裏面は落ち葉に似た茶色です。幼虫はホトトギスやサルトリイバラなどの葉を食草とします。成虫はコナラやクヌギの樹液によく集まります。成虫で越冬します。

12 トキワイカリソウ

見つけやすさ ★★★



山野の林内に自生する草花類です。花が錨のような形をしているのが名の由来です。また、近縁種のイカリソウは冬に落葉するのにに対し本種は落葉しないため、常緑を意味する常盤(常葉)が名に付いています。種子はアリによって運ばれます。

10 オオシマザクラ

見つけやすさ ★



サクラの仲間です。伊豆大島に多く自生するところから「大島桜」となりました。花と同時に緑色の新葉が出て、葉は塩漬けにして桜餅の材料に使われます。ソメイヨシノはオオシマザクラとエドヒガンの交雑種といわれる園芸品種です。

08 カンヒザクラ (寒緋桜)

見つけやすさ ★



中国原産のサクラの仲間です。寒い時期から他の桜より早く開花します。あまり高木にならず、沖縄地方の一部では野生化しています。葉よりも先に、紅色の花が固まって垂れ下がって咲きます。多くのメジロやヒヨドリが蜜を吸いに集まってきます。

06 シロバナヤマフジ

見つけやすさ ★



つる性の落葉広葉樹で、ヤマフジの白花の品種です。近縁種のフジ(別名ノダフジ)のつるは左巻き(左肩上がり)ですが、シロバナヤマフジのつるは右巻き(右肩上がり)です。フジより早く開花し、白色の蝶形花を咲かせます。

04 カキツバタ (鶯の尾)

見つけやすさ ★



カキツバタの園芸品種です。紫色に白色の条線があり、後水尾天皇(108代)の御遺愛の花と伝えられています。野生種のカキツバタは、京都府レッドデータブックでは準絶滅危惧種に掲載されています。

02 エナガ 留鳥

見つけやすさ ★



樹々の枝先でクモや昆虫類を探す野鳥です。尾が長く、柄杓のように見えるところから、「柄杓」という名になりました。群れて移動し、一年を通して見られます。「ジュリジュリ…」と鳴きます。

01 セスジイトンボ

見つけやすさ ★



水面を飛び回る小さなイトンボの仲間です。背の黒い帯に筋があるのが名の由来です。オスは青色、メスは黄緑色なのが特徴です。オスとメスが連結して水面付近の植物に産卵します。幼虫(ヤゴ)で越冬します。

夏

生きたもののマッパ

平安女神宮

東神苑

11 ゴイサギ

12 ヤマガラ

フジ

10 ササヅミ

生きものの位置を図示していますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

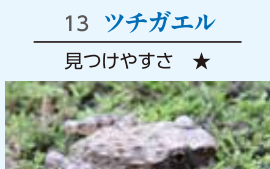


見つけやすさ ★★

オスは成熟すると顔面まで真っ赤になり、翅の付け根も赤褐色を帯びますが、赤トンボの仲間ではありません。名は猩々しやうじやう(赤い装束をまとった架空の動物)になぞらえて付けられました。メスは単独で水草に腹の先を打ち付けるように産卵します。



南袖茄



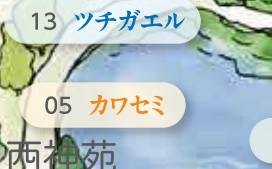
見つけやすさ ★

湿った所を好む茶色のカエルです。神苑にはアマガエルもいますが、ツチガエルが圧倒的に多く、7月には至る所で鳴き声が聞こえます。捕らえると体から臭い粘液を出します。背のイボ状突起が特徴で、「ギューギュー」と低い声で鳴きます。



見つけやすさ ★

浅い水域に生息するスイレン科の多年草です。根茎は白く、人の骨に似ていることから、「河骨」と呼ばれるようになりました。長い花茎の先端に一つだけ黄色い花を付けます。スイレンの葉を細長くしたような形の濃い緑色の葉で、光沢があります。



05 カワセミ



06 ショウジョウトンボ



03 ナガバオモダカ



見つけやすさ ★★

夜行性のサギです。しかし、繁殖期はヒナに餌を与えるため日中も採餌します。醍醐天皇の神皇苑の行幸の折、空を飛んでいたサギが勅命に従って舞い降りたのをたたえて、「五位」の位を与えたというのが名の由来です。頸をすぼめるとペンギンに似ています。



見つけやすさ ★

神苑内では、チャタマゴタケの茶色型や黄色型も白色型の近くで見られます。シイやカシの林でよく見られ、樹木と水分や養分のやり取りをする共生関係にあります。神苑は白色型群生の珍しい地であるといえます。



見つけやすさ ★

水面に葉や花を浮かべるのが特徴の水生植物(多年草)です。花は毎日開閉を繰り返して4~5日ですばみます。よく似たハス(蓮)とは、花や葉のつき方や、葉には光沢と深い切れ込みがあることで区別できます。



見つけやすさ ★

湿った場所を好み多年草です。トカゲの尾のような形の穂状の花が咲くと、ハチやアブなどが集まってきます。花期になると上部の葉が半分白くなるので、片白草とも呼ばれています。「半化粧」や「半夏生」が名の由来ともいわれています。



見つけやすさ ★★

水面に飛び込み、小魚などを捕らえる野鳥です。神苑には様々な小魚やエビ、水生昆虫が数多く生息しているため、これまでに神苑内での繁殖に成功したこともあります。体の長さの半分ほどあるくちばしと短い尾が特徴です。



見つけやすさ ★

浅い所に生息する水生植物(多年草)です。葉の大きさは30cmくらい、長い長楕円形で、冬は水中にロゼット状の葉が残ります。北アメリカ東部原産の帰化植物で、三つ三つ白い花が輪生します。日本に在来種のヘラオモダカに似ています。



見つけやすさ ★★

アカトンボの仲間、顔を前から見ると盾を立てたような黒い模様があるのが名の由来です。メス(写真左)は翅の先端に黒褐色の斑紋があるものとなないものがあります。メスは腹(尾)の先を水面に打ち付けるように産卵し、卵で越冬します。



見つけやすさ ★

高さ1～2mの落葉低木です。京都ではミヤギノハギが植えられている寺社は稀です。歌枕の「宮城野の萩」が名の由来です。枝垂れているのが特徴で、南神苑にもあるマルバハギより花柄が長いので区別できます。夏と秋に花が咲きます。

秋 冬 平安女神宮

生きものの位置を明示してはいますが、あくまでも調査時のものであり、必ずしも同じ場所で見つかるとは限りません。

用語解説 留鳥 餌を求めて移動するものの、ほぼ一年を通して見られる野鳥 渡鳥 秋から冬にかけて国内を越冬のために移動してくる野鳥 冬鳥 秋から冬にかけて日本より北の地域から越冬のために渡ってくる野鳥

06 ルリビタキ 漂鳥
見つけやすさ ★★

青色のヒタキ科の鳥で、鳴き声はジョウビタキの「ヒッヒッ」という声に似ています。春から夏にかけ山間部で繁殖し、秋に平地に降りてきます。縄張りを持ち、ほぼ同じ場所で見られます。木の実や虫をついばみます。

07 セスジツユムシ

08 オオアオイトンボ

09 ギンモクセイ クロガネモチ

10 マガモ

11 ウメ

06 ルリビタキ

05 ミヤギノハギ

04 フジバカマ

マンリョウ

03 リンドウ

イチイ

02 カワラヒワ

11 ウメ

見つけやすさ ★

春早くに白やピンク、紅色などの華やかな花を、葉に先立って咲かせる落葉広葉樹です。神苑では臥龍橋の近くにある白梅が印象的です。万葉集では桜よりも梅の方が遙かに多く詠まれています。梅紋は梅の花を图案化した家紋です。

09 ギンモクセイ

見つけやすさ ★★

中国原産の常緑広葉樹です。樹皮には縦に裂け目があります。キンモクセイの葉より幅が大きく、葉の先が尖っています。花には香りがありますが、キンモクセイほどではありません。白い小さな花が1箇所から束になって咲きます。

07 セスジツユムシ

見つけやすさ ★★

オスの背中には茶褐色の筋があり、メスの背中には黄白色の筋があるツユムシです。色々な植物の葉を食べ、低木や丈の高い草に止まっています。「チチチ…ジューッジョ、ジューッジョ」と鳴きます。体色が褐色型もいます。

04 フジバカマ

見つけやすさ ★

秋の七草の一つで、川岸や土手に生える多年草です。野生種は激減し、京都府レッドデータブックでは絶滅寸前種とされています。花の色がフジに似て、花弁の形が袴のような形なので、「藤袴」となったといわれています。

05 ミヤギノハギ

見つけやすさ ★

神苑内では、白花と紅紫色があります。秋だけではなく夏にも花が見られ、神苑を豊かに彩っています。本来は木本植物ですが、秋を代表する草として、平安時代に「萩」の字が当てられるようになりました。冬は葉を落とします。

03 リンドウ

見つけやすさ ★

青紫の鐘形状の花をつける多年草です。花は日を受けて開き、夜間や曇りでは閉じてしまいます。根は漢方では健胃剤として用いられています。山野に広く分布し、茎は直立し、葉は向き合って付き茎を抱いています。

02 カワラヒワ 留鳥

見つけやすさ ★

ヒワはアトリ科の鳥の総称で「繊弱やか」からきています。川原によくいるヒワなので「川原ヒワ」というのが名の由来です。地上や丈の高い草に止まって種子などをついばみます。神苑では、一年を通して見られます。

01 ジョウビタキ 冬鳥

見つけやすさ ★★

名の「ジョウ(尉)」は翁の意味で、オスの頭が白髪のように見えることに由来し、「火焚き」は「ヒッヒッ」という鳴き声が火打石の音に似ていることに由来しています。シベリアなどから越冬のために渡って来ます。

13 ムラサキナギナタケ

見つけやすさ ★

マツなどの針葉樹林地上で群生しています。褐色がかった紫色で、先端がナギナタのような曲線を描いているので、ムラサキナギナタケという名になりました。高さは10cmぐらいで、細長く、中は空洞です。

12 カルガモ 留鳥

見つけやすさ ★

カモの仲間の代表種で、神苑では一年を通して見られます。オスもメスもほぼ同じ地味な色をしていて、くちばしの先だけ黄色いのが特徴です。マガモなどと比べて黒っぽいので、黒ガモが転化してカルガモという名になったともいわれています。

10 マガモ 冬鳥

見つけやすさ ★

カモの仲間の代表種です。オスの頭が緑色に光って見えるので青首と呼ばれることもあります。江戸時代前期にマガモといわれるようになりました。普通のカモという意味だったようです。越冬のために北の国から渡って来ます。

08 オオアオイトンボ

見つけやすさ ★★

体全体が濃い金緑色に輝く、細い体形のトンボです。翅を広げて草葉や枝にぶら下がるように止まるのが特徴です。メスは、水面に張り出した木の生枝に産卵管を刺して産卵します。初冬まで見ることができます。

神苑の池中の宝物

約一万坪を誇る平安神宮神苑で4分の1を占める池の中にも様々な生きものの営みがあります。魚や亀、特に失われつつあるタナゴが多く生息しているのです。

この池の水は琵琶湖疏水から引き込まれていて、琵琶湖の直系種である淡水魚や貝が入り込み、失われつつある琵琶湖の生態系がそのまま池に保持されることとなりました。ニゴロブナ、タナゴ、タモロコ、ヨシノボリなど12種類の生息が確認されていて、「ニ琵琶湖」の異名をもつほど注目を集めています。

イチモンジタナゴとは

イチモンジタナゴは、体長が5〜7cm程度のコイ科の仲間で、濃尾平野、琵琶湖・淀川水系、福井県三方湖、和歌山県紀ノ川などに分布する日本固有種です。平野部の流れの緩やかな河川や池沼に生息しており、雑食性で、付着藻類や水生の小動物を食べます。

特徴的な形態として、体側に青い縦線が二字「状に長く伸びていることが挙げられ、これが和名の由来となっています。

産卵期の3〜7月には、オスの婚姻色の紅色

の線が青い線のすぐ上を通り、メスは産卵管が伸び、ドブガイ類などのイシガイ科の二枚貝に産卵します。



イチモンジタナゴ(オス)



イチモンジタナゴ(メス)



長く伸びた産卵管

平安神宮神苑の生きものたち

私達人間が地球上で無事に生きていられるのは、動物・植物を問わず、多様な生きものたちが共にいてくれるおかげです。ありがたいことに、平安神宮の神苑には、実に様々な生きものが豊かに世代を重ねています。こうした豊富な自然と生命を支える大きな源泉の一つが琵琶湖疏水によって運ばれる琵琶湖の水です。今にして思えば奇跡的なことに、約40年前に水質保全のために設置した浄化装置のフィルターが、図らずも外来魚の侵入を防ぎ、イチモンジタナゴに代表される琵琶湖本来の生態系を守ってくれました。

平安神宮の御創建から121年、この命豊かな環境がこつて現代に残っているのは、たゆまぬ営みを続けてきた先人のおかげです。平安神宮に奉職して40年、私はこうした多様な生きものの暮らしを見続けてきました。受け継がれてきた貴重な環境をできるだけそのままの姿で次代に贈ることが、激変する現代に生きる私達世代の使命だと思っています。ですが、相手は自然ですので、人間などが守ることと思つて守れるものでもありません。ささやかながらできることは、日々お庭や生きものをよく観察し、研究者の先生や琵琶湖博物館の学芸員、行政関係者など、志を同じくする専門家の皆さんと密に連携を図ること。そしてこの多様な生きものの営みが変わらず続くことを願うことしかありません。命豊かな神苑を将来に残していけるよう、今後も皆さまの協力添えをいただければ幸いです。

本多 和雄氏
平安神宮 御宮司

平安神宮神苑の生きものたち

イチモンジタナゴの危機と保全

イチモンジタナゴは、全国的に個体数が減少しており、京都府内では、平安神宮神苑の池と淀川水系の一部に局在するのみで、京都府レッドデータブック2015(※1)では絶滅寸前種に分類されています。減少要因としては、圃場整備や河川改修による生息場所の減少、肉食外来魚による食害、産卵母貝の減少及び飼育目的による乱獲などが考えられています。

平安神宮神苑の池では、オオクチバスなどの外来魚の侵入以前に浄化装置が設置されていたため、琵琶湖疏水からの外来魚の侵入は防がれていますが、近年、池底に有機物が堆積し、底質環境が悪化したことよつて、産卵母貝となるマルドブガイが激減し、それに伴つてイチモンジタナゴの個体数も明らかに減少しています。

イチモンジタナゴの保全のためには、マルドブガイの安定した増殖を目指し、堆積した有機物の除去を行うなどの対策が望まれています。

(京都府レッドデータブック2015から引用)

※1「京都府レッドデータブック 2015」
府内における絶滅のおそれのある野生生物種や保護を要する地形・地質・自然現象、自然生態系の現状やその保全対策を複合的に把握し、府内の生物多様性を保全する施策の基本的データとして活用するために取りまとめられた京都府レッドデータブックの最新改訂版。

神苑の池中の魚たち



タモロコ



イチモンジタナゴ(オス)



モツゴ



ヌマムツ

平成28年5月には、京都市が実施する「親子生きもの探偵団(※2)」を平安神宮神苑で開催し、生きもの調査を行いました。京都水族館から専門家を招いて実施した今回の調査では、イチモンジタナゴを含む4種16匹の魚が採集されました。参加者たちにとつて、貴重な生きものが身近に生息していることを学べる、いい機会となりました。

※2「親子生きもの探偵団」
京都市の生物多様性の保全に向けた行動の必要性を理解していただくための環境教育・普及啓発の一環として開催している。一般の親子を対象にした自然観察会。

京都市・京都水族館との連携

平成28年5月には、京都市が実施する「親子生きもの探偵団(※2)」を平安神宮神苑で開催し、生きもの調査を行いました。京都水族館から専門家を招いて実施した今回の調査では、イチモンジタナゴを含む4種16匹の魚が採集されました。参加者たちにとつて、貴重な生きものが身近に生息していることを学べる、いい機会となりました。

平安神宮神苑の池での生きもの調査

「親子生きもの探偵団を通じて」

京都水族館では「身近な自然を感じてもらいたい」という思いの下、京都市と共同で今回のような企画をこれまでも開催しております。



京都は「千年の都」と称され、興味深いのは平安神宮神苑が「千年前からのタイムカプセル」と言えるのではないかとことです。事実、今回調査を行った池には、もはや市内の河川では目にするこがまずないイチモンジタナゴが生息しています。これは本当に凄いことで、この魚を守ろうと様々な努力がされています。参加者の皆さんにも、この繊細な美を全身にまとうた魚を身近に観察していただけたので、とても有意義だったと思います。イチモンジタナゴがその姿を水中から現した時の子どもたちの歓声が今でも耳に残っています。数が少なく珍しいという事実のほか、この日本に、そして地元京都にこんな美しい魚がいるんだと体感していただき、それを通じてもっと様々な



地元の自然を意識してもらえきつかけになれば幸いです。

下村 実氏
京都水族館館長

Biodiversity Snaps



春の大覚寺
大沢池のサクラ



春の大覚寺
クヌギ(雄花)



春の大覚寺
コアオハナムグリ



夏の大覚寺
カイツブリ



夏の大覚寺
ツバメシジミ



秋冬の大覚寺
クロガネモチ



秋冬の大覚寺
シメ



春の平安神宮
ヤエベニシダレとヤマガラ



春の平安神宮
クロアゲハ



夏の平安神宮
シオン



夏の平安神宮
カワセミ



夏の平安神宮
ハブロトンボ



秋冬の平安神宮
タチバナ



秋冬の平安神宮
イソヒヨドリ



秋冬の平安神宮
雪の神苑

制作協力(敬称略, 五十音順)

河合 嗣生(環境カウンセラー)
旧嵯峨御所大本山大覚寺
京都水族館
公益財団法人京都市都市緑化協会
西台 律子(日本鳥学会員)
平安神宮

発行：京都市環境政策局環境企画部環境管理課

平成29年3月発行

京都市印刷物第 283215 号

この印刷物は再生紙を使用しています。

平成29年3月策定!

京都市環境教育・学習基本指針

検索

